



阪神・淡路大震災から20余年、神戸の経験を東日本大震災の教訓と重ね合わせ、差異を読み解こうとする様々な試みが始まっています。神戸大学においても、有志の学際的連携組織である「震災復興支援プラットフォーム」を拠点に、震災復興という二つの現象に多方向から接近し、習合する試みを続けて来ました。このほど成果として、学生、一般向けの図書『震災復興学』(阪神・淡路20年の歩みと東日本の教訓)を世に問いました。

この出版を受けて、本シンポジウムの第1部では、同書の執筆者がつどい、学際的見地から復興支援・学術調査の知見を報告します。

第2部では、同書の問いかけに呼応するかたちで、被災地域の内側にあつてつねに被災者の目線から震災復興の諸側面を追う神戸・東北の地元新聞記者を招聘し、二つの震災が残した復興の課題、災害対応力を備えた社会構築のあり方を探る機会とします。

震災復興学シンポジウム

災害対応力を備えた社会のあり方検証

2016年**3月8日** [火] 14:00~17:00
神戸市勤労会館 403・404講習室
(JR三ノ宮駅南東側徒歩5分)

**参加費
無料**

定員120人・到着順受付

● 開会あいさつ 神戸大学都市安全研究センター長 北後 明彦

第1部 学際的研究からの復興支援・学術調査

阪神・淡路大震災とその後の災害医療

神戸大学都市安全研究センター教授 西山 隆

大災害から地域歴史文化を守り伝えるために

神戸大学大学院人文学研究科教授 奥村 弘

災害復興基本法への提言—2つの大震災の教訓から

神戸大学大学院国際協力研究科教授 金子 由芳

第2部 地方新聞の報道から見た災害対応力を備えた社会のあり方

犠牲者の遺言・二度と津波で人が死なないように

岩手日報社北上支局長 磯崎 真澄

「犠牲繰り返さぬ誓い」をともに

河北新報社論説委員会副委員長 武田 真一

伝え続ける 被災地から

神戸新聞社報道部次長 長沼 隆之

- 討 論 [司会] 奥村 弘
- 閉会あいさつ 立命館大学政策科学部教授 塩崎 賢明

主 催：神戸大学震災復興支援プラットフォーム
 神戸大学都市安全研究センター
 神戸大学社会科学系教育研究府防災リスクマネジメント・ユニット
 共 催：神戸大学地域連携推進室 (COC+事業)
 神戸大学男女共同参画推進室
 後 援：神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室

お問い合わせ

神戸大学都市安全研究センター (〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1)
 TEL: 078-803-6437 (事務室・山崎) / mail: rcuss@kobe-u.ac.jp
 TEL: 078-803-6440 (北後研究室・熊崎) / FAX: 078-803-6394
<http://www.kobe-u.rcuss-usm.jp/contact>